

収集と保存方針 来年度中 県立民俗博 検討委初会合＝奈良

2024/11/19 大阪読売新聞 朝刊 23ページ 389文字

県立民俗博物館（大和郡山市）の所蔵品が増え、保管スペースが不足している問題で、有識者ら5人でつくる「民俗資料収集・保存方針等検討委員会」の第1回会合が18日、県庁で開かれた。2025年度中に収集と保存の方針を策定する方針を確認した。

同博物館は、農具や家具などの民俗資料約4万5000点を所蔵するが、これまで収集・保存についての明文化された基準がなかった。そのため、収集基準や保存方法、除籍の手順などに関する規定の方針を決めることになった。

この日の委員会は、冒頭以外は非公開だった。県によると、資料の整理状況などを委員が共有したほか、県の担当課が収集・保存方針の骨子案を説明した。

委員会終了後、委員長の国立民族学博物館の日高真吾教授は報道陣に、「重い宿題をいただいていると思う。様々な場で議論を深め、スピード感を持ってやりたい」と話した。

第2回は来年1月に開催する予定。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.